

赤谷の森から

○赤谷の森のモニタリング活動第4回（溪流環境復元WGの取組）

赤谷プロジェクトでは、生物多様性の復元に向けた取組の一環として、溪流環境の復元にも取り組んでいます。

平成21年度には、溪流の上流と下流の連続性を確保し、自然本来の溪流環境の復元を目指す治山ダム中央部を撤去する改修工事を行いました。



治山ダム中央部の撤去

溪流環境とは

とところで、溪流とは本来どのようなものなのでしょう。その特徴の一つには、水の循環に伴う物質（砂礫・土砂等）の移動があげられます。溪流の更新の仕組や生態学的な機能もこの水による砂礫等の移動の働きの上に成立しています。しかしながら、水のもつエネルギーは時として非常に大きなものとなり、溪流の形を変えるような大規模な災害も引き起こします。そのような災

害が下流に暮らす人たちに被害をもたらさないよう、赤谷プロジェクトエリア内でも要所・要所に治山ダム等が設けられ、大規模な土砂や砂礫の移動を抑制しています。

一方、山地の溪畔林に自生するケシヨウヤナギやシオジ、サワグルミなどは、砂礫の移動が頻繁に発生する場所を好むことが分かっており、砂礫の移動を抑制しすぎると、これらの樹種が衰退させる可能性を持っています。

溪流環境の調査

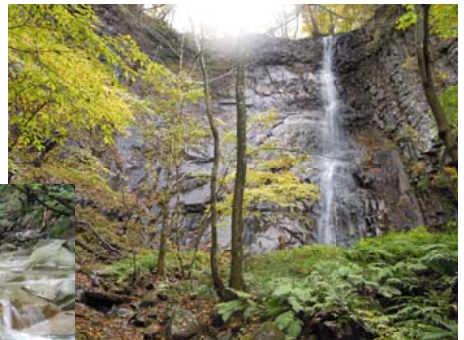
そのため、赤谷プロジェクトでは、エリア内のどこにどのような溪流環境があるのかを把握し、それぞれの特徴を踏まえた上で、溪流ごとの環境の保全・復元のあり方を検討しています。

日本では溪流環境（地形や地質など）そのものに着目した調査はあまり行われてこなかったことから、この調査は、「調査マニュアル」と「調査野帳」の作成から始まりました。調査項目は、地形と水の流れ、川底は岩盤か石礫か、河原や谷斜面に植生があるかなど、専門家だけでなくとも説明を受け、何れ所か調査すれば記入できるものとなっています。

溪流環境の調査を行って

活動を始めてから9年目となる赤谷プロジェクトでも溪流の踏査は初めてでした。

下流の調査ポイントから歩いていけばいい、そんな風に考えていましたが、谷底が狭くなったり（水深が深くなり、溪流を歩けない！）、広くなったり、カーブを曲がったら見上げるような滝・・・。行きつ戻りつを何度となく繰り返しながらの



プロジェクト関係者の誰も知らなかった大滝

調査ですが、新たな発見も多く楽しめました。これらの調査が溪流という特殊な環境に依存する動植物の保全等につながるればと考えています。

○ブラジルからのお客様

11月27日に国際協力機構（通称JICA）が行う研修で日本を訪れているブラジルの環境省職員3名の方が赤谷の森を訪れました。

当日はなんと雪。夏真っ盛りの国からのお客様をお迎えするにはあんなに天気、と思いましたが雪を見始めたのははじめて！と感



雪とたわむれる様子

謝されてしまいました。ご存じの通りブラジルは国土も広く民族も多種多様、国民の教育水準も様々、そして今、まさに発展中、そのような国での自然保護活動は苦勞の連続のようです。赤谷プロジェクトは発足9年目で、ようやく各種工事等との調整のルー化ができてつづつあること、このような取組を進めて行くには、「幅広い層への環境教育」や「科学的な根拠に基づいた情報提供」等が重要と考えている等の説明をしました。皆さんからは、ブラジルで環境教育に取り組むのはまだまだ難しいが、保護区の利用を規制するだけではなく、情報提供等にも力を入れていきたいとのコメントをいただきました。熱帯ジャングルを抱えるブラジルでの動植物の保護活動に、赤谷プロジェクトが何かの参考になればと思



ブラジル環境省職員と記念撮影